



## 木村照始さん 広報編集委員を離任 長年ご貢献いただきありがとうございました

このたびは、広報編集委員の離任ご挨拶として、貴重な誌面をご提供いただき誠にありがとうございます。

私は、第95号（2015年4月発行）から第124号（2022年4月発行）までの7年間、30巻の誌面づくりに携わらせていただきました。



木村 照始 氏  
豊田ケミカルエンジニアリング (株)

あらためてこの期間を振り返りますと・・・

### 〈2015年〉

愛知県内すべての54市町村と「災害時における廃棄物の処理等に関する協定締結」を完了しました。

これを契機に、私の所属する尾張南支部においては関係自治体殿と何度も「災害廃棄物処理」をテーマに対話を重ねております。今号にも『行政との合同会議』の様子が掲載されております。災害発生後の迅速な地域復興を図りたいと願う金田英和支部長の強い思いと、復興支援に実績経験を持つ山本浩也委員長をはじめとした災害特別委員会の方からの分かりやすい資料展開を受けました。有事における初動の大切さを痛感した次第です。

### 〈2016年〉

協会として大問題となった「廃棄食品の横流し事件」が当地区でありました。

長年積み重ねてきた業界の信頼低下を引き起こした事案でしたが、その反面で世間の方々に我々業界を知っていただく機会を得て、日頃の廃棄物適正処理の重要性をご認識いただけたと考えております。

毎年、各支部で行われている『不法投棄防止パトロール』や『清掃ボランティア』の継続も事件を風化させないための大切な啓発活動だと考えます。

### 〈2019年〉

新元号「令和」として新しい時代が幕開けしました。協会ではこの年に『女性部』が誕生いたしました。

『青年部』の若い感性と『女性部』のしなやかな感性の融合で業界が大きく変化を遂げていく予感を感じました。

この年は全国で地震や台風による災害発生が多い

年でもありました。10月に発生した台風19号による『長野県千曲川の河川氾濫』においては、当協会会員有志の支援活動により早期復興の足掛かりを実現させたことは記憶に新しいところです。

### 〈2020年〜〉

突如として世界を震撼させたコロナ禍が始まり、当たり前だった日常に様々な制約制限が強いられるようになりました。

2021年1月より当協会は創立30周年を機に『愛知県産業資源循環協会』へ改称して、適正処理から資源循環への変革を内外へPRする式典までも中止を余儀なくされました。

それでも、今年は「行動制限のない」3年ぶりのゴールデンウィークとなりました。少しずつではありますが各地で賑わいを取り戻しつつあったように感じます。いよいよWithコロナの幕開けと大いに期待しております。

協会の通常総会を始め各支部総会が開催され、新年度の活動議案が掲載されています。

Withコロナで会員皆様方の積極的な活動参加をお願いしたいと思います。

最後になりますが、中野広報編集委員長のもと、『情報発信と業界のイメージアップ』に関われたことへの深謝と『循環あいち』がこれからも末永く皆様にご愛読いただけることを祈念して、ごあいさつに代えさせていただきます。

皆様、誠にありがとうございました。

木村照始さん長年広報編集に多大なるご協力を頂きまして、誠にありがとうございました。

広報編集委員会は他の委員会に比べて開催回数が多く、毎回色々な企画・編集の作業をお願いしております。その中でも木村さんは、皆さんが気付かない部分を指摘してくださり、また、産廃業界に対する前向きなご意見を数多く発信して頂きました。

今回残念ながら離任されますが、引き続き外部から見たご意見を頂けたら幸いです。

改めまして、心より感謝申し上げます。

(一社) 愛知県産業資源循環協会副会長

広報編集委員長 中野兼司